

広域連携について



正和会
清水 義朋 議員

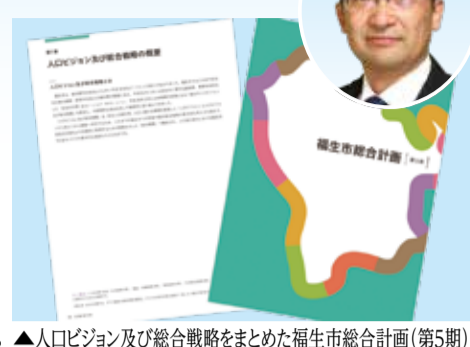


質問 人口減少による労働力不足、インフラや公共施設の老朽化が進むことが想像される。今後を見据え、広域連携をさらに進めるために、ソフト、ハードを含めた課題解決が必要と考えるが、本市の所見を伺う。

市長 人口減少は、近年全国的な課題となっており、本市の人口は、令和2年3月に策定した人口ビジョン及び総合戦略の人口推計において、

2040年には現在より約15%減少すると推計している。そのため本市では、総合戦略を中心とした定住化対策を図るとともに、広域連携にも積極的に取り組んでいる。令和6年1月27日に「6市市長が語る地域自治体連携シンポジウム」を開催し、広域的な観点から意見交換をする予定で、新たな連携についても模索していく。広域連携は、多様化する市民ニーズ

への対応や人口減少社会において、効果的・効率的な行政サービスを提供していくための有効な手段と考える。連携に至るには、自治体間における固有のニーズ等、互いの利害が一致することが前提となり、諸条件の合致には、関係機関との対話の中でお互いに歩み寄る必要があるが、行政需要等を考慮し、今後も住民サービスの向上に資する連携に努める。



▲人口ビジョン及び総合戦略をまとめた福生市総合計画(第5期)

本市の薬物乱用防止対策について



正和会
幡垣 正生 議員



質問 本市の薬物乱用防止啓発活動の取り組みについて伺う。

市長 薬物乱用防止のための啓発活動を推進し、薬物乱用の根絶を図ることを目的に、福生市、羽村市、瑞穂町の2市1町の指導員で構成された「薬物乱用防止推進福生・羽村・瑞穂地区協議会」がある。活動内容は、年1回の総会や東京都主催の研修会への参加等のほか、中学生を対

象に啓発ポスターや標語の募集を行っている。さらに、健康まつりなどでも薬物乱用防止のための啓発活動を行っている。

小・中学校における児童・生徒の歯の健康の保持・増進について

質問 本市における児童・生徒の歯の健康の把握と実態について伺う。

教育長 学校が児童・生徒の歯の健康を把握する機会、学校保健安

全法に基づき実施する小学校入学前に行う就学時健康診断と入学後に毎年行う定期健康診断がある。就学時健康診断では、歯と口腔の形態・機能が正常に発育しているかを確認する。その結果については、「就学時健康診断の結果について」という通知を全ての保護者に渡し、う歯、いわゆる虫歯がある場合は、入学前までに治療を受けるよう依頼している。



▲健康まつり会場での薬物乱用防止PRブース

脱炭素社会の取組について



公明党
川崎 善友 議員



質問 使用済みペットボトルを新たなペットボトルに再生させる水平リサイクルについて市の所見を伺う。

市長 水平リサイクル「ボトルtoボトル」は、ペットボトルを資源として何度も循環することができ、化石燃料由来の資源及びCO2の削減に寄与するものである。現在市が収集したペットボトルは、主にペットボトル以外の衣類や食品トレイなど

プラスチック製品にリサイクルされている。脱炭素社会への一助になるものと考え、水平リサイクルを行っている飲料メーカーに対して聞き取り等を既に実施しており、今後は、導入している自治体の状況や課題等の情報収集を行っていく。

子ども誰でも通園制度について

質問 本市の取り組み状況を伺う。
市長 全ての子育て世帯が就労要

件を問わず保育所等を利用できるという点で、市が掲げる「子育てするならふっさ」「こどもまんなかふっさ」にも通じている。同様の趣旨で東京都が実施している「多様な他者との関わりの機会の創出事業」を、当面は幼稚園で実施する予定で、関連の補正予算を今定例会でご審議いただく。今後も福生市の子ども政策をさらに広く展開していく。



予約型乗合タクシー (AIオンデマンドモビリティ) について



公明党
堀 雄一郎 議員



質問 交通アクセスを補完する新たな手法としての予約型乗合タクシーについて本市の所見を伺う。

市長 予約型乗合タクシーは、AIを活用し、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせることで検索、予約、決済を一括で行うMaasを取り入れたものだが、本市では交通弱者対策として既に福祉バスを導入しており、令和6年1

月9日から新たに「たなばた号」の走行開始と既存の「つつじ号」「もくせい号」のルート改正も行い、さらなる利便性の向上を図っている。まずは、この事業を定着させ、検証を行うことが大切と考えているため、現在のところ予約型乗合タクシーを導入する考えはない。

奨学金返還支援制度について

質問 近隣市等で若年層向けに、

一定期間の定住、特定業種に就業する等を条件に奨学金の返還を支援する制度があるが本市の所見を伺う。

市長 大学生等の若年層をターゲットとする視点は、新たな定住化施策につながる可能性を持った取り組みと考えられることから、令和6年度の人口ビジョン及び総合戦略の改定作業に当たり、引き続き先行自治体の取り組みの状況を注視していく。



▲1月から運行を開始した福祉バス「たなばた号」

米軍横田基地について



日本共産党
市毛 雅大 議員



質問 令和5年1月に泡消火薬剤が漏出したとする報道についての経過と対応は。

市長 11月3日の報道を受け、東京都と周辺市町連絡協議会を代表して、当日中に、都から防衛省北関東防衛局に対し、事実関係を明らかにするよう申し入れをした。その後も横田基地内でのPFOS等を含む泡消火薬剤の現在の保有量、保管場所、

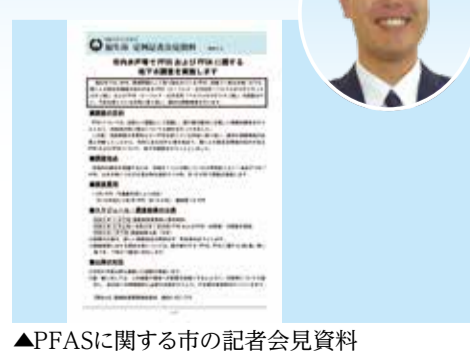
保管方法及び使用の実態について、速やかに情報提供するよう要請している。北関東防衛局からは、事実関係を確認し、分かり次第早急に情報提供するとのことだったが、現在のところ情報提供はない。

有機フッ素化合物 (PFAS) による環境汚染問題について

質問 福生市独自でPFASの調査を行うことを公表したが、その内

容について伺う。

市長 11月29日の定例記者会見において、昨今の報道等により、市民からPFASが自分たちの生活や健康にどのような影響があるのか不安に思う声が寄せられており、市民の不安を解消する取り組みとして、市内地下水のPFASに係る現状を把握するため、PFOSとPFOAの調査を実施する旨を説明した。



▲PFASに関する市の記者会見資料